アジア便り

徳嶺勝信

沖縄企業へのPR課題

ベトナム

6月、ベトナム南部ホーチミンは雨期に入る。日本の梅雨とは違い、午後から短時間でスコールが降ることが多い。日差しはまだまだ強いが雨が上がれば比較的涼しいので、雨さえしのげれば過ごしやすい時期となる。

6月5～7日、ベトナム政府と日本貿易振興機構（JETRO）が主催する「ベトナム投資カンファレンス及び日越企業交流会」が、東京と大阪で開かれた。当社ベトナム子会社もベトナム代表企業の一員として参加した。

このカンファレンスには、ベトナムからフック首相が座長となり、関係閣僚や各省の代表者、ベトナムの優良企業の代表者ら約150人が訪日した。フック首相自ら、日本企業向けにベトナム進出のプレゼンテーションをし、日本企業代表らとのパネルディスカッションも精力的にこなした。

日本企業にとっては、今後の日系企業の進出に対するベトナムの期待度や、企業向け政策、注目度が高いTPPに関するベトナムの考えなど、フック首相から直接聞けるいい機会になった。

安倍晋三首相も参加し、日本とベトナムの良好な関係を垣間見たように思う。今後の日越協力の期待値を感じさせる内容だった。ベトナムと日本の企業の事業協力などの調印式もあり、当社子会社はベトナム側としてインフラ浄水事業で、JFEエンジニアリングと提携協力協定書を締結した。

日本側の参加者は事前予約から申し込みが殺到し、当初予定していた千人を大きく上回って、約1500人にもなったと聞いている。ベトナムで感じる以上に日本の関心の高さがうかがえた。

最近は、沖縄からもベトナムへの視察団が増えた。来沖時にはインフラ関連のセミナーでベトナムの可能性を説明したり、飲食関連も含めたサービス業の事業可能性を話したりする機会が増えた。ただ、実際に進出している沖縄の企業は少ない。ベトナムを含む東南アジア諸国連合（ASEAN）地域での事業可能性への期待値を日本本土と比較すると、まだまだ沖縄の盛り上がりは低い。今後どうやってASEANをPRしていくかが、海外に拠点を置いているわれわれ沖縄人の役割だと改めて感じた。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。